

1 自己評価及び外部評価結果(1F)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172101103		
法人名	メディカル・ケア・サービス東海株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム大垣 1F		
所在地	岐阜県大垣市宝和町15番		
自己評価作成日	平成21年8月18日	評価結果市町村受理日	平成21年10月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者本人の残存機能を維持する為に、家事、レクを含め本人の出来る事はやっていたり、出来ない所を援助していくという事を常に考え実行している。
また、季節ごとの行事や花見など外出の機会も設け季節感を味わっていただけるように努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者が交替して半年が経った。着任当初は管理者の考え方が理解できず、職員の側には手探りの対応のみであった。今では、管理者の思いを理解した職員が一体となって同じ方向に進み始めている。ホーム独自の理念を持っていないが、今こそ理念策定の好機ではなからうか。法人の理念に整合したホーム独自の理念の構築は、さらなるケアの充実を約束してくれよう。
まだ完全とは言い難いが、運営推進会議は充実してきたし、日常的な外出支援も家族の評価が好転した。その1番の要因を、管理者は「職員の意識の変革」と賞したが、まさに職員の意識が変わることによって、結果に大きな変化が期待できるということの実証である。
前回からの課題である「地域との交流支援」がどのように進展していくか、1年後が楽しみである。

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosp/infomationPublic.do?JCD=2172101103&SCD=320>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 中部社会福祉第三者評価センター		
所在地	岐阜県関市市平賀大知洞566-1		
訪問調査日	平成21年9月15日		

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目		取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域で安心した暮らし、関係性の継続、地域生活の継続を支えるための支援を理念の柱に置き、毎日朝、夕方の申し送り時に唱和し、職員全員で確認し共有している	管理者が着任して半年。ケアの方向性を定めるため、まずは法人理念の徹底から始めた。ホーム独自の理念は作成されていないが、管理者の思いが職員にも浸透してきている。	ホームの課題や目指すべき目標を明確にするためにも、法人理念と整合したホーム独自の理念を持つことは有用である。職員にも共感を呼ぶ理念の策定が待たれる。
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的に散歩や買い物などに出かけている。地域での催し物(豆まき)には積極的に利用者が参加しているが回数は少ない。	交通量の多い道路に面しているため、利用者が自然な形で地域に出ていくことが困難な状態にある。予定されていた秋の収穫祭も、新型インフルエンザの感染予防のために中止となった。	前回評価と同じように、地域との交流支援には大きな課題を残している。計画を立てて、地域への浸透を目指してほしい。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者は、地域の様々な研修、会合に関わりながら認知症ケアの啓発に努めている。チャレンジボランティアスクールの体験学習の受け入れを積極的に行っている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用状況、人員状況、活動報告、評価結果等を報告し意見、要望を聞いている。また検討事項や懸案事項について、その経過を報告し話し合い一つ一つ積み上げていくようにしていく。	参加のなかった利用者の家族が出席するようになり、会議としての有効性は増した。ホームからの報告事項に加え、課題をあげての意見交換が行われている。外部評価との連動もみられない。	会議メンバーとして、利用者と福祉関係の知見者を加えることが望ましい。自己評価の報告、外部評価結果の検討、改善活動の進捗検証等は会議の必須事項である。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議開催時の議事録を手渡しにて報告するため訪問している。また、随時問題点があれば直接訪問し面会している。行政からの情報はメールにて提供していただく体制をとっている。	市役所が近いことから、管理者は常に担当者のもとへ顔を出している。地域包括センター職員に任せず、担当者を訪問して運営推進会議の内容を直に説明している。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関に関して目の前が道路であり車の往来も多く利用者様の安全面から施錠している。利用者が外出したい時はこえかけをしたり、一緒について行くなど、対応している。現在、利用者の安全面を考慮しながら、施錠を無くすよう検討中である。	管理者だけでなく、職員もユニット入口や玄関の解放を望んでいる。様々な事情から開錠は実現していないが、「身体拘束」に関する意識は高い。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	機会あるごとに、職員への話をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度のついては、ケースも少なく他の職員は理解していない。今後、勉強会を開き理解を深めるように努める。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間を取って丁寧に説明している。特に利用料金やおこりうるリスク、重度化についての対応方針、医療連携体制などについては詳しく説明し同意を得ている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には手紙や訪問時に意見や要望を積極的に聞ように努めている。また、運営推進会議にて地域や市職員の前で意見が言えるようにし、より良い運営が出来るよう助言を頂いている	運営推進会議への家族の出席が毎回3名程度あり、公の場での家族意見が聞けるようになった。参加した家族同士の話題も増え、ホームと家族との距離は著しく縮まっている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホーム会議や研修会にて意見・要望等を聞く機会を設けたり、日頃から職員の考えを聞くようにしている。	着任当初、寡黙な管理者の考えが理解できず、職員の側にも手探りの対応が目立った。管理者からの積極的な言葉掛けもあり、現在ではホームの一体感が感じられる。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者も現場へ行き利用者と話をしたり、職員の様子も確認している。年1回の人事考課を行い給与への反映や職員が向上心を持って働けるよう努めている。休憩時間の取得についても定期的に確認している。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ヘルパーなど資格取得のための情報提示、その他研修の情報も提供している。また、資格取得費用の一部助成も行っている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所とレクリエーションを合同で企画したり、散歩時に立ち寄るなど交流を設けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で生活状態を把握するよう努め、本人にとって必要な事等を聞き不安なく生活が始めれるよう職員の対応の仕方にも気をつけている		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が求めているものを理解し、不安等本心話せるような話し方、聞き方をし、事業所としてどのような対応が出来るかも説明している。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人やご家族の思い、状況等を把握し、改善に向けた支援の提案や相談を行いながら必要なサービスにつなげるようにしている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者は人生の先輩であるという認識を職員が共有しており、自分で出来る事はして頂き互いに協力し生活出来るように場面づくりや声掛けをしている		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人手書きの葉書や手紙を書き家族とのつながりを持っている 家族で過ごせる時間(自宅に帰る、外出する等)を作っている		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人に葉書を書いたり地域の祭り、花火大会に参加している 全員が馴染みの場所に行けてはいない	家族が、利用者の昔の友達を連れてくることがある。その友人はおるか家族をも認識できない利用者に接し、訪問者は悲嘆にくれる。このような現状から、訪問者の足が遠のいてしまうことを職員は恐れている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	みんなで楽しく過ごす時間を設けるなど、利用者同士の関係がうまくいくような場面作りに努めている。仲の良くない利用者同士は関わりが少なくなっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去になるとその後の関わりは薄い 一部今も経過を確認している方もいる		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で声掛け、把握に努めモニタリングにて記録に残している。今後のケアにつなげている。	バーベキュー大会の折、ノン・アルコールのビールを出したら大好評であった。お酒の好きな利用者が把握できたので、機会があればビールを出すことを計画している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人又は親族との会話や行動から生活歴などについての情報を得るように努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の生活リズムを理解し、本人の行動や言動、表情などから本人の現状把握に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族の思いや意見を聞き反映させるようにしている。職員全員でモニタリングやカンファレンスを行っている。	見直しの都度、利用者と家族の意向が聞き取られており、モニタリングの結果と併せて、支援の方針が決められている。目標が変更されても、ケアの内容が変わっていないケースが見られた。	モニタリング時に、目標の「継続」、「変更」、「中止」等の判断が甘く、次回計画への継続が確認されないケースもあった。長期・短期目標の定義にも一考が欲しい。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員の気づきや利用者の状態変化は介護記録に記載し、またモニタリング、申し送りノートを使用し情報共有を徹底するとともに、見直しや意見交換を行っている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況に応じて、通院等の支援は柔軟に応じている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民間の訪問理美容の提供や音楽療法等市のボランティア団体の協力により楽しい時間を提供している		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望する病院への受診をしている。基本的には家族対応の受診となっているが、不可能な時は職員が付き添い受診に行っている。また主治医との医療連携もしている	利用者はそれぞれのかかりつけ医を持っているが、ホームの提携医の往診時には全ての利用者が受診している。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護(週1回)往診(月2、3回)にて健康管理や相談・助言・対応を行うと共に、急変等には24時間体制で助言が受けれるようになっている		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中の状態把握をし、退院後に安心して過ごせるように病院との情報交換をしている		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化に伴い事業者が対応できるケアについて説明を行って同意を得ている。	管理者、職員ともに、ホームで支援可能なケアの限界を認識しており、終末期ケアの実施には踏み込んでいない。そのため、利用開始時に「特養」の同時申し込みを依頼している。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを整備しホーム内研修や会議等にて勉強会を行っている。 新しい職員または経験の少ない職員は対応に戸惑う事がある。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、年2回利用者とともに地域や消防の協力の下で避難訓練を行っている。消防署の協力により、避難訓練、非難経路の確認、消火器の使い方などの定期的な訓練と、年1回は、夜間を想定した訓練もおこなっている。	年間2回の防災訓練のうち、1回は夜間想定での避難訓練を実施している。実施された記録は残っていたが、訓練から得られた課題や反省点の抽出(評価)がなく、次回への展開につなげていない。	夜間想定での避難訓練では、地域住民の協力の必要性が浮き彫りになったはず。協力依頼の方法等は、運営推進会議でのテーマとして取り上げるべきであろう。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ホーム内研修やミーティングの折に、職員の意識向上と自分自身の現状確認を図るとともに、利用者のプライバシーを損ねない対応を心掛けている。	法人の定めた個人情報保護方針に従って、個人情報取り扱いの「同意書」をとっている。ケアに係わるプライバシー保護の手順等はない。	個人情報の保護もプライバシーを守ることの一部ではあるが、さらに広い意味でのプライバシー確保の手順書作成や取り組みが期待される。
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	外出や買い物等を好きな物を選んでいただいているが、自己決定がしづらい利用者に対し衣類を職員が決めている		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的に1日の流れは作ってあるが、一人ひとりのペースを大切に、それに合わせた対応を心掛けている。しかし入浴や行事等、職員の都合で決めている事もある。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の着替えは、見守りや支援が必要な時に手伝うようにしている。月1回の理美容の訪問があり、希望者には利用していただけるよう連携を取っている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る方には盛り付け等一部手伝っていたいている。職員は利用者と一緒に食事を楽しく食事が出来るような雰囲気作りも大切にしている。	これまで3名いた調理担当者が1名に減員となった。管理者はこれをマイナスととらえず、利用者が調理や食事の準備に参加するきっかけとなることを望んでいる。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの体調と一日の食事及び水分摂取量を把握している。利用者個々の状態に合わせて食べやすい食事形態で提供できるようにしている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者の状態に合わせて、食後の口腔ケアの手伝いを行っている。入れ歯のある方には職員が洗うなど清潔保持に勤めている。職員に口腔ケアについてのホーム内研修も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を大切に、自尊心に配慮しながら、利用者の身体機能に応じて援助したり、誘導している。排泄チェック表を使用し、尿意のない利用者にも時間をみはからい誘導しトイレでの排泄を支援している。	自立排泄に向けての支援が功を奏し、リハパンから普通のパンツに変わった利用者がある。特養やショートステイ利用から入居した利用者も、おむつが取れてリハパンになった。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬も使用しているが朝食にセンナ茶を飲用し、水分補給を多くし歩行や入浴で対応している		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	強制入浴せず、ご本人の意思を尊重し入浴している。往診や外出、レクリエーションにより午前入浴をしている。	最低週に2回の入浴を目指しているが、入浴順序で機嫌を損ねたり、家族が介助しないと風呂に入らない利用者もいる。無理強いせず、気長な入浴支援を行っている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるよう努めている。また一人ひとりの体調や希望等を考慮しつつも休息がとれるよう支援している。寝付けぬ時には温かい飲み物を飲みながら会話をしている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルの作成や処方箋のコピーを整理し、職員が内容を把握できるようにしている。服用時は本人確認のうえ手渡し、きちんと服薬できているかの確認をしている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野で一人ひとりの力を発揮してもらえよう、お願いできそうな仕事を頼み、感謝の気持ちを伝えるようにしている。おやつ作りや、畑の野菜作り等経験や知恵を発揮する場面を作っている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気・本人の気分や希望に応じて、日常的に散歩、買い物あるいはドライブ等に出かけている。また、季節ごとの花見や、行事にも参加できるよう積極的に利用者へ声掛けし季節感を肌で感じてもらう、心身の活性化につながるよう努めている。	前回評価と比較して、家族アンケートでは最も改善が見られた項目である。管理者は、その1番の原因を「職員の意識の変革」と言い切った。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小額ながらもお金を持っている人もいる。家族よりお金を預かり事業所が管理している人でも、買い物、外出時等にはいつでもお渡しできる体制にある。支払に関しても自分で支払っていただけるように配慮している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に応じて、日常的に電話や手紙を出せるよう支援している。電話は事務所でかけていただき、会話が他の利用者に聞こえないよう配慮している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	台所と食堂が対面式となっており、日常の炊事の音や風景が感じられる工夫をしている。居間・廊下も比較的広く開放感の感じられる空間となっており、フロアーには季節感を感じられるような作品を利用者と一緒に作り掲示している。	広い共用空間は、通路を挟んで食堂と居間を別々に配している。食事が終わると、利用者は思い思いの場所に移動して過ごしている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間にソファとテーブルを置き一人で過ごしたり、仲の良い利用者同士でくつろげるスペースをつくっている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンスや椅子以外にも、それぞれの利用者の好みや馴染みの物などを生活スタイルに合わせて用意している。写真・絵画等やその他使い慣れた日用品が泊まりの部屋に持ち込まれ、利用者の居心地のよさに配慮している。	利用者その人の最も象徴的な品物が居室にはある。絵が得意だった利用者の居室の壁には、絵画2点が飾ってある。思い出の大正琴を持ち込んでいる利用者、いたるところに書を貼り出している利用者等々がいる。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人にとって「何がわかりにくいのか」「どうしたら本人の力でやっていただろうか」を考え、状況に合わせて環境整備に努めている。新たに混乱や失敗が生じた場合は、本人の不安材料を取り除き、力を取り戻せるよう試みている。		

1 自己評価及び外部評価結果(2F)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172101103		
法人名	メディカル・ケア・サービス東海株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム大垣 2F		
所在地	岐阜県大垣市宝和町15番		
自己評価作成日	平成21年8月18日	評価結果市町村受理日	平成21年10月1日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2172101103&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 中部社会福祉第三者評価センター
所在地	岐阜県関門市平賀大知洞566-1
訪問調査日	平成21年9月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者本人の残存機能を維持する為に、家事、レクを含め本人の出来る事はやっていただき、出来ない所を援助していくという事を常に考え実行している。 また、季節ごとの行事や花見など外出の機会も設け季節感を味わっていただけるように努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

(外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入))

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+Enter)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域で安心した暮らし、関係性の継続、地域生活の継続を支えるための支援を理念の柱に置き、毎日朝、夕方の申し送り時に唱和し、職員全員で確認し共有している		
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的に散歩や買い物などに出かけている。地域での行事には積極的に利用者が参加しているが回数は少ない。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者は、地域の様々な研修、会合に関わりながら認知症ケアの啓発に努めている。チャレンジボランティアスクールの体験学習の受け入れも積極的に行っている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用状況、人員状況、活動報告、評価結果等を報告し意見、要望を聞いている。また検討事項や懸案事項について、その経過を報告し話し合い一つ一つ積み上げていくようにしていく。		
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議開催時の議事録を手渡しにて報告するため訪問している。また、随時問題点があれば直接訪問し面会している。行政からの情報はメールにて提供していただく体制をとっている。		
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	居住部分とエレベーター・廊下に通じる扉を施錠している。利用者が外出したい時はこえかけをしたり、一緒について行くなど、対応している。現在、利用者の安全面を考慮しながら、施錠を無くすよう検討中である。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	機会あるごとに、職員への話をしている。職員も意識して利用者に関わっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度については、ケースも少なく他の職員は理解していない。今後、勉強会を開き理解を深めるように努める。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間を取って丁寧に説明している。特に利用料金やおこりうるリスク、重度化についての対応方針、医療連携体制などについては詳しく説明し同意を得ている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には毎月手紙を送っている。またホーム訪問時にはご家族と話をし普段の様子などを伝え、また、運営推進会議にて地域や市職員を交え意見交換ができる機会を設け助言も頂いている		
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホーム会議や研修会にて意見・要望等を聞く機会を設けたり、日頃から職員の考えを聞くようにしている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者も現場へ行き利用者と話をしたり、職員の様子も確認している。年1回の人事考課を行い給与への反映や職員が向上心を持って働けるよう努めている。休憩時間の取得状況についても定期的に確認している。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ヘルパーなど資格取得のための情報提示、そのた研修の情報も提供している。また、資格取得費用の一部助成も行っている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所とレクリエーションを合同で企画したりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談により現在の生活状態や困っている事・要望等を把握し、入居後不安なく生活が始めるようにしている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族がホームに求めているものを理解し、ご家族が話しやすい対応をするように心掛けている。 また事業所としてどのような対応が出来るかも説明している。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人やご家族の思い、状況等を把握し、改善に向けた支援の提案や相談を行いながら必要なサービスにつなげるようにしている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者は家族の一員という認識を持って接している。家事等手伝っていただき、自分で出来る事はして頂き互いに協力しながら生活出来るように場面づくりや声掛けをしている		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族宛の本人手書きの手紙を書き家族に送っている。 ホームでの行事等の案内を出し家族の参加をお願いしている。 時には家族と共に外出や外食される事もある。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や知人に手紙を出したり地域の祭り、花火大会に参加できるよう取り組んでいる。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士で楽しく過ごせる場面や時間を設けるなど、利用者同士の良い関係を作れるように努めている。 利用者によっては他の利用者との関わりを拒否される方もいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後の関わりは薄い。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人から希望・意向を聞けない方は、スタッフが日々の関わりの中で声掛け、把握に努めモニタリングにて記録に残し、本人本位のケアが出来るようにつなげている。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント等の情報を共有し、本人又は家族との会話や行動の中から生活歴などについての情報を見つけ出せるように努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の身体状況や生活リズムを理解し、本人の行動や言動、表情などから本人の現状把握に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族の思いや意見を聞き反映させるようにしている。職員全員でモニタリングやカンファレンスを行っている。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員の気づきや利用者の状態変化は介護記録に記載し、またモニタリング、申し送りノートを使用し情報共有を徹底するとともに、見直しや意見交換を行っている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況に応じて、通院等の支援は柔軟に応じている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民間の訪問理美容の提供や音楽療法等市のボランティア団体の協力より楽しい時間を提供すると共に、ホーム以外の人との関わりが持てるように努めている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望する病院への受診をしている。基本的には家族対応の受診となっているが、不可能な時は職員が付き添い受診に行っている。また主治医との医療連携もしている		
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護(週1回)往診(月2、3回)にて健康管理や相談・助言・対応を行うと共に、急変等には24時間体制で助言が受けれるようになっている		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際には様子を見に行き状態把握をし、退院後に安心して過ごせるように病院との情報交換をしている		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化に伴い事業者が対応できるケアについて説明を行い同意を得ている。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルの掲示とホーム内研修や会議等にて勉強会を行っている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、年2回利用者とともに地域や消防の協力の下で避難訓練を行っている。消防署の協力により、避難訓練、非難経路の確認、消火器の使い方などの定期的な訓練と、年1回は、夜間を想定した訓練もおこなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ホーム内研修やミーティングの折に、職員の意識向上を図るとともに、利用者のプライバシーを損ねない対応を心掛けている。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が自由に選択できるような場面作りに努めている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的に1日の流れは作ってあるが、一人ひとりのペースを大切に、それに合わせた対応を心掛けている。しかし入浴や行事等、職員の都合で決めている事もある。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服の選択は利用者を選んでいただくようにし、見守りや支援が必要な時に手伝うようにしている。月1回の理美容の訪問があり、希望者には利用していただけるよう連携を取っている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も利用者と一緒に同じテーブルを囲んで食事をしている。出来る方には配膳や食後の後片付け等一部手伝っていただいている。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの体調と一日の食事及び水分摂取量を把握している。利用者個々の状態に合わせて食べやすい食事形態で提供できるようにしている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者の状態に合わせて、食後の口腔ケアの手伝いを行っている。入れ歯のある方には職員が洗うなど清潔保持に勤めている。職員に口腔ケアについてのホーム内研修も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を大切に、自尊心に配慮しながら、利用者の身体機能に応じて援助したり、誘導している。 リハパンの使用を減らす働きかけもしている。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	十分な水分補給や毎朝の体操を行い便秘対策に取り組んでいる。 下剤を使用している方には個々に応じた使用量、頻度で使用している。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	声掛けをし、利用者のその日の希望を確認し本人の意思を尊重し入浴していただいている。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるよう努めている。また一人ひとりの体調や希望等を考慮いつでも休息がとれるよう支援している。寝付けない時には温かい飲み物を飲みながら会話をする等配慮している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルの作成や処方箋のコピーを整理し、職員が内容を把握できるようにしている。服用時は本人確認のうえ手渡し、きちんと服薬できているかの確認をしている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野で一人ひとりの力を発揮してもらえよう、お願いできそうな仕事を頼み、感謝の気持ちを伝えるようにしている。おやつ作りや、畑の野菜作り等経験や知恵を発揮する場面を作っている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気・本人の気分や希望に応じて、随時散歩、買い物あるいはドライブ等に出かけている。また、季節ごとの花見や、行事にも参加できるように積極的に利用者に声掛けし季節感を肌で感じてもらう、心身の活性化につながるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族よりお小遣いを預かり事業所が管理している。ただし、買い物、外出時等にはいつでもお渡しできる体制にある。支払に関しても自分で支払っていただけるように配慮している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に応じて、日常的に電話や手紙を出せるよう支援している。電話は事務所でかけていただき、会話が他の利用者に聞こえないよう配慮している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	台所と食堂が対面式となっており、日常の炊事の音や風景が感じられる工夫をしている。居間・廊下も比較的広く開放感の感じられる空間となっており、フロアーには季節感を感じられるような作品を利用者と一緒につくったり写真を掲示している。		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間にソファとテーブルを置き一人で過ごしたり、仲の良い利用者同士でくつろげるスペースをつくっている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンスや椅子以外にも、それぞれの利用者の好みや馴染みの物などを生活スタイルに合わせて用意している。写真・絵画・仏壇等やその他使い慣れた日用品が泊まりの部屋に持ち込まれ、利用者の居心地のよさに配慮している。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の出来る事、出来ない事を把握し、状況に合わせて環境整備に努めている。新たに失敗や危険が生じた場合は、本人の不安材料を取り除くよう努めている。		